

LIVING SHIFT
2022年11月発行
発行/高島市役所 総合戦略課
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565
TEL 0740-25-8114

高島市の暮らしと子育て

LIVING SHIFT

shiga TAKASHIMA

わが子は、湖の子。
うみ



びわ湖の水のふるさとが、 わが子のふるさとになったら。

滋賀県の人の中には親しみを込めて「うみ」と呼ぶ、
言わずと知れた日本一大きな湖・びわ湖。
その水の3分の1を生み出すまちを知っていますか？

滋賀県の北西部にある高島市。

比良山系の水脈に恵まれた、びわ湖の水のふるさとです。

山と湖の間で、ゆたかな水と生きる暮らし。

もしも、この地で子どもを育てるとしたら

いったいどんな暮らしになるだろう。

この冊子はそんな高島での日常を紹介しています。

本当のゆたかさについて考えることが増えたこの頃。

高島でその答えを見つけて、暮らしを変える。

そんな家族が、今、少しずつ増えています。

『高島リビング・シフト構想』推進中

仕事中心の生活から自分の価値観を中心とした生活へ。高島市の自然や暮らしに魅力を感じ、今よりちょっと幸せになるために最適なワークライフバランスを実現したい。そう思う人たちの一歩をさまざまな取り組みで応援するプロジェクトです。

※プロジェクトの詳細は、高島市のホームページをご覧ください



本冊子は移住者の視点を生かして制作しました。

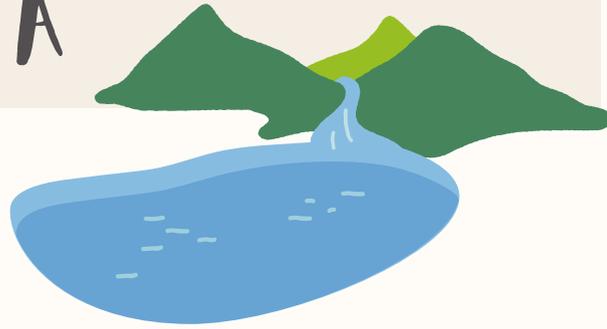
編集・執筆／福馬俊太郎

コロナ禍を機に夫婦で京都市から移住。里山の小さな集落で、自然と暮らしを日々勉強中。住んでみて驚いたことは、水のきれいさと田畑を耕す年配の方のたくましさ。

撮影／佐野誠二

妻と息子2人の家族4人で2020年に移住。登山や野菜づくりを楽しみながら、フリーでカメラマン・採用支援・メディア運営などの活動を行う。 niji-note.net

高島のDATA



[人口]※1

46,551人

[面積]※1

693 km²

※うち、びわ湖の面積181km²

[びわ湖に注がれる水量のうち
高島市から流れ込む水の割合]※5

37%

[森林の割合]※3

75.1% (385km²)

※陸地に対する比率

[耕地(田畑)の割合]※2

9.8% (50.4km²)

※陸地に対する比率

[年間平均気温(2021年)]※4

高島市 14.8°C (最高 35.2°C/最低 -7.3°C)

京都市 16.9°C (最高 38.7°C/最低 -4.1°C)

大阪市 17.5°C (最高 38.9°C/最低 -1.5°C)

[市の愛称]

びわ湖源流の郷

発酵するまち

虹のまち

[特産品]

近江牛

高島扇骨

高島ちぢみ・高島帆布

鮒ずし

鯖のなれずし

日本酒 など

[市の百選]

海津大崎の桜並木(日本のさくら名所百選)

八ッ淵の滝(日本の滝百選)

畑の棚田(日本の棚田百選)

※ほか12の「百選」に選出

[福井県(嶺南)へ
車でのアクセス]

今津
→敦賀
約45分

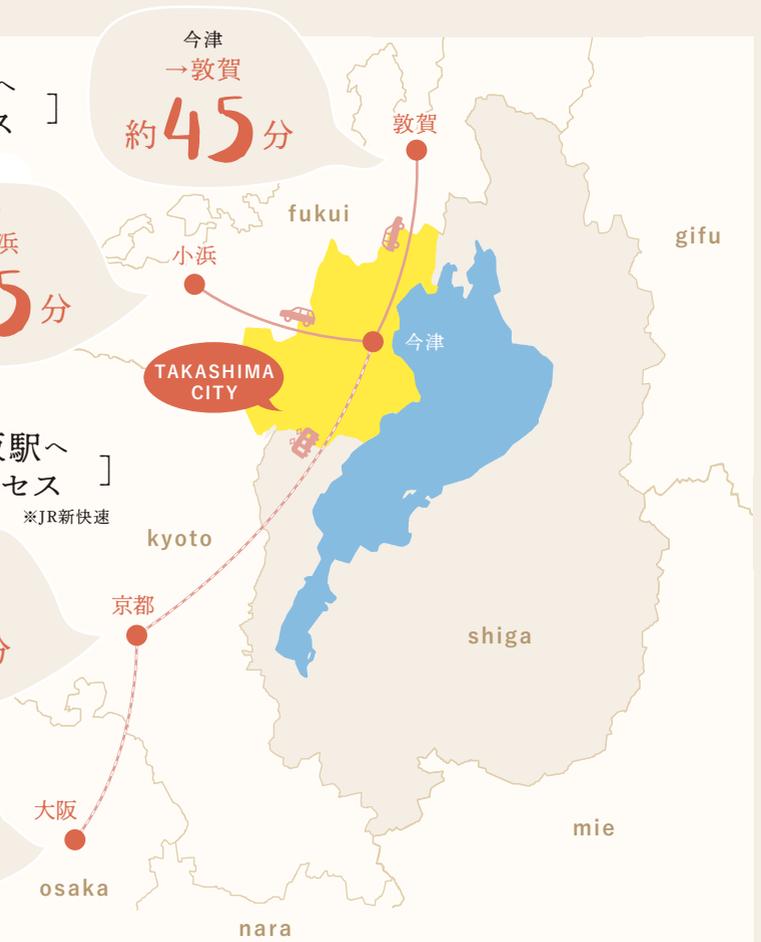
今津
→小浜
約45分

[京都駅・大阪駅へ
電車でのアクセス]

※JR新快速

近江今津駅
→京都駅
約48分

近江今津駅
→大阪駅
約75分



[地域の数]

6

※1 高島市ホームページより(2022年9月末時点) ※2 作物統計調査「令和3年産市町村別データ」より ※3 2020年農林業センサス「現況森林面積」より ※4 気象庁ホームページより ※5 参考資料 西部流域森林づくり委員会 高島地域部会「森林からの命の湧き水」より



便利より自由な方が、
子どもはのびのび育つ。

きれいな水がそばにある 高島の暮らし

広い空と田園風景、その中に点在する焼杉壁の日本家屋。道には屋外看板などの広告物は少なく、白い軽トラが今日も颯爽と走り抜ける。そして東を向けばびわ湖、西に視線を移すと比良山系。いつもおだやかな風景が心地よい。山と湖に囲まれた高島の暮らしは、中山間地域、平野、湖岸と変化に富んだ住環境がある。いずれも共通するのは、きれいな水。湧き水、川の水、湖と、水が暮らしのそばにあり、里山では庭にミウガやワサビが自生しているところも。

住まいはというと、土地相場は県内でも比較

的安いエリア。都会と比べると「一桁間違っていない？」と思う価格で、リフォーム済みの古民家6LDKのようなお宝物件を見かけることもある。住まいが広いとこれから家族が増えても安心。もちろん子どもを預けられる施設やサービスも充実しているので、家族の時間と自分の時間どちらも大切にできる。さらに湖西線を利用すれば京都・大阪も通勤圏。今の仕事を続けながらも高島の暮らしをはじめられる。よりリアルな暮らしを移住の前に体験するなら、農家民泊や高島市がサポートする「おためし暮らし」がおすすめ。



都会と比べて夏は涼しい。 冬はというと…

年々増しているように感じる夏の暑さも、高島では山や川からの涼風のおかげで関西の都市部と比べてさわやか。今もエアコンをつけずに一夏を過ごせるところだってある。暑ければびわ湖や近くの川へ。ドボン!と入って体を冷やせばいいし、その方が健康的でエコ。逆に冬は日本海側に近いことから厳しい寒さがつづく。積雪量も多く「湖国の北海道」や「近畿のチベット」と例える人もいる。晩秋には若狭湾からの季節風により天気雨もしばしば。虹もよく見かける。季節ごとの自然の色の濃さは都会とは一味違う。

まだあまり知られていない ほどよい田舎暮らしができる高島

湧き水や川といったきれいな水の環境に惹かれ、市の北端に位置するマキノの古民家に暮らして6年。住んで感じる高島の印象は「ほどよい田舎」だということ。京都・大阪といった都会へのアクセスは便利なのに、自然との距離が近くてのどか。とはいえ雪はよく積もるし、雨もよく降り、風の強い日も多い。大変な時もありますが、1年を通して自然の美しさや季節の移ろいを身近に感じられる。蛍やトンボなどいたるところに生命を見つけられるし、ヒグラシの鳴き声や川のせせらぎとか都会ではなかなか聞けない自然の音も魅力ですね。

そんな高島ですが、まだ市外の人にその魅力をあまり知られていないというか、神秘的なところも私は好きです。



こののゆきひろ
河野至宏さん

愛知県出身。大学在学中、高島でのボランティア活動をきっかけに2016年に移住。2018年から農家民泊「たらいち邸」を営む

河野さんに
会える場所!

農家民泊で暮らしをちょっと体験

たらいち邸

1日1組限定の農家民泊。築150年の趣を活かした空間で里山暮らしを体験できる。囲炉裏を囲んでの談笑、かまどで炊いたごはん、ヒノキ香る五右衛門風呂など非日常を感じるぜいたくな時間。収穫体験やピザづくりといった体験メニューも充実。



マキノ町上開田145-1
HP taraiichi.com
たらいち邸
taraiichihouse

もっとディープに高島を感じたいなら

JR西日本×高島市共同プロジェクト おためし暮らし

仕事そのまま、新しい暮らしにトライしたい方へ。JR西日本と高島市がサポートする「おためし暮らし」で、気軽に高島ライフをはじめられる。物件は短期(1~3ヶ月)と長期(6ヶ月以上)の2種で月額2万円〜。

うれしい3つの支援策! /

- ①JR通勤運賃を一部支援
- ②1ヶ月からおためしLOK
- ③充実したサポート窓口

TEL 0740-25-8526
(高島市役所市民生活部市民協働課)
HP westjr.co.jp/life/living/otameshi_life
JR西日本×沿線自治体 おためし暮らし

LIVING SHIFT
食の文化



好きな食べものが
きつと増える、地元の味。



澄んだ水と肥沃な土が育む
高島の食

水のきれいなところに、おいしいお米あり。米どころとして知られる高島では、田植えや稲刈りの時期にトラクターやコンバインが道路をゆっくり走る姿は季節の風物詩。大切に育てられてようやく迎えた秋。田んぼが黄色に染まる頃、新米出荷のお知らせは心おどる。

そして肥沃な土壌が育む、おいしい食材の数々。野菜は有機栽培など農薬に頼らない方法で育てるこだわりの農家さんも多く、新鮮で味の濃い食材が気軽に手に入る。その土地で

とれたものを味わえるのは、なんとぜいたくなことだろう。万木かぶなどの伝統野菜から西洋野菜、栗や柿など、多種多様な食材が各地域で育てられているが、特に冬の寒さに耐えるように甘さを増した根菜類のおいしさは格別。

また、年間を通して湿度の高い高島では、昔から発酵食の文化が根付いている。代表的なのは珍味で知られる鮎ふなずし。ほかにも日本酒、醤油、酢、味噌なども地元の素材でつくられている。そして高島名物といえば「とんちゃん」も忘れてはいけない。とんちゃんとは豚にあらず、味噌をベースにした味付け鶏肉。地元では誰もが知る逸品はBBQにも最適で子どもも大好きな一品。

地元の人も通う
道の駅の直売コーナー

地元産のお米や野菜を買うなら直売コーナーを備えた道の駅へ。市内には安曇川、朽木、マキノの3ヶ所があり、各地域の個性を感じるラインナップは見ているだけでもおもしろい。人気の場所では、地元の人が朝から野菜を求めてオープン前から並び、昼にはなくなってしまうところも。

普段の買い物はエリアごとでお店がコンパクトに集まっていて便利。移動の足はもっぱら車だが、運転が不安という方でも大丈夫。高島の道はシンプルで駐車場も広々としてすぐに慣れてしまう。

column
ホシネの高島 vol.2

家で育てた大豆や野菜を
自家製の味噌や漬物にする日常

もともと就農目的で移住してきました。高島を選んだ一番の理由は、黒ボク土という有機物を豊富に含んだ土壌。関西ではわずか3%ほどしかないらしく、地域の方や先輩農家さんにサポートしていただきこの地で野菜を育てています。

「食」について、移住して最初に驚いたことは、地元のみなさんが自家製の味噌をつくられていたこと。当時住んでいた今津に味噌加工場があり、家で育てた大豆やお米を持ち込んで手前味噌にしていました。自分の家の味がいいですね。私も最初は教えてもらいながらつくってました。ほかにも鮎ずしやかぶら漬けを家庭で日常的につくられているので、昔から発酵食の文化が生活に深く根付いている地域なんだと感じました。

高橋さんに
会える場所！

こだわりの農家さんをピックアップ

針江のんきいふぁーむ

清らかな湧水で知られる針江地区で、お米づくりを営む農家。こだわりは農薬や化学肥料を使わない有機栽培。それは安心安全でおいしいことはもちろん、昔からこの土地に根付く水や土、生きものの恵みを活かした「地の味」を伝えるため。



新旭町針江417-1
HP nonkifarm.com
針江のんきいふぁーむ
nonkifarm

みなくちファーム

マキノ地域の特産・原木しいたけと、無農薬の野菜とお米をつくる「みなくちファーム」。原木は町内のクヌギを自ら伐採したものを使用。さらに、しいたけ栽培で出る古木を自社で堆肥化。畑の肥料にして野菜を育てる循環型農業を行っている。



マキノ町蛭口1386-8
HP minakuchi-farm.com
みなくちファーム
minakuchi_farm

みのり農園/sato kitchen

近江野菜や西洋野菜など年間約200種類を有機栽培で育てながら、農園近くにて収穫したばかりの新鮮な野菜を料理で味わえる農家レストラン「sato kitchen」を週末に営む。料理に使用する野菜を一つひとつ丁寧に解説してくれるのも、農家直営ならではの。



安曇川町田中4964(みのり農園)
安曇川町中野786(sato kitchen)
HP minorinouen.info
みのり農園
satokitchen_minorinouen



たかはしかな
高橋佳奈さん

滋賀県大津市出身。料理人のご主人と2013年に移住して就農。高島市内でも珍しい黒ボク土の地域・泰山寺にて多品種の野菜を有機栽培で育てる「みのり農園」を営む

植物や生きものの宝庫は
知れば知るほどおもしろい。



びわ湖、山、川、森。 海だって近い

湖や山、川、森といった自然の遊び場は、「わざわざ行く」というより「近所への散歩」くらいの感覚で充実している。びわ湖でいえば、湖西は県内でも水質のきれいなエリア。湖水浴は大津市の近江舞子が有名だが、市内でも充分すぎるほど楽しめる。子どもをつれてピクニックやバードウォッチング、さらにサップやカヤックまで遊び方は自由自在。とにかくふところが多い。山や川、森も暮らしの延長線にあるので、お散歩もぜいたくに。季節の変化を感じたり、生きものや植物を見たり触れたり…日常がフィールドワークそのもの。

column ホンネの高島 vol.3

高島のびわ湖は泳いで楽しめる
特に市の南側の浜がお気に入り

「高島での休日」で真っ先に思い浮かぶのは、びわ湖での湖水浴。以前は大津市の瀬田に住んでいましたが、湖畔は整備された都会的なイメージで泳ぐことはありませんでした。高島はいい意味で自然そのままの感じが好きですね。特に気に入りのスポットは高島市の南側（高島周辺）。湖西に連なる比良山系の地質が花崗岩ということもあり、白い砂浜なんです。水も透き通っていて、見るとついつい子どもに戻るといふか、気持ちをリフレッシュさせてくれます。

そして夏、湖水浴と並んで楽しみなのが高島に来てから知った盆踊り「高島音頭」。各地域によって踊りが異なっているので盆オドラーの仲間と一緒に地域をめぐって満喫しています。



うえだみき
上田 未來さん

滋賀県大津市から2014年に移住。現在は「大溝の水辺景観まちづくり協議会」で地域活性化を目的に活動する傍ら、ご夫婦でキッチン付きシェアスペース「白湖」を営む

上田さんに
会える場所！

さらに、福井県の小浜や敦賀といった嶺南エリアへも車で40分ほど。家族でのドライブにちょうどいい。新鮮な海産物や荒々しい日本海の景色、海釣りも休日の選択肢のひとつになる。

まちのイベントも、 見逃せない

地域で開催されるイベントの情報収集は、SNS以外に市の広報誌が意外に役立つ。イベントでは移住者同士のつながりや地元の生産者、作家さんなど新しい出会いがたくさん。高島の魅力を再発見できる機会を楽しもう。高島のようなほどよいまちのサイズでは、共通の趣味や価値観を持った人とつながるスピードはおどろくほど速い。

休日のおすすめスポット

グリーンパーク 想いの森

緑豊かな森の中にあるリフレッシュパーク。広大な敷地には、温泉やプール、地元食材を味わえる食事処、バーベキュー場などが充実。丸太やロープでつくられた子どもに人気のアスレチックもあり、自然を感じながら1日ゆっくり過ごせる。



朽木柏341-3
HP gp-kutsuki.com
グリーンパーク想いの森
green_park.staff.yuka

新旭水鳥観察センター

びわ湖は水鳥を中心に多くの野鳥が生息。湖西を代表する観察センターでは大きな窓から双眼鏡で湖の入江を年中観察できる。特に冬は、水草を食べるカモや家族で湖面を泳ぐコハクチョウなど、大きな鳥から小鳥まで愛らしい姿に出会える。



新旭町餐廳1600-1
HP mizudori.net
新旭水鳥観察センター

白湖

上田さんご夫婦が営むキッチン付きシェアスペース。廃材を使って自らリノベーションしたお店は、アジアご飯やスイーツ、喫茶店など、毎回どんなお店の味に出会えるか、のぞいてみたくなる場所。ワークショップやイベント会場にもなることも。



勝野 1229
白湖
hako_takashima

すくすく子どもが育つようにながーーーーく子育てを応援

子育て支援に力を入れている高島市。さまざまな支援制度で、ゆたかな自然の中での子育てをサポート。

まずはアプリをダウンロード!

※2022年9月時点の制度です。記載内容は一部ですべてではありません。
※詳しくは、子育て応援アプリ「はぐっとナビたかしま」をご覧ください。



妊娠・出産 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中1 中2 中3

妊婦の健診費用 全額助成

保育料は第1子から完全無償
保育所などを利用する子どもの保育料が無償

学童保育所
放課後や長期休み中の留守家庭に対して学びの場を提供

在宅育児支援事業
日中家庭で子育てをする保護者などに給付金を支給

学校給食費を完全無償
市内小中学校に在籍する児童生徒の給食費が無償。また市内在住で、市立小中学校以外の学校に在籍する場合は補助がある

中学生までの医療費無料
中学卒業までの子どもの入院・通院にかかる医療費（自己負担分）が無料

ファミリー・サポート・センター たすけあい高島
仕事と育児を両立できるように、子どもの預かりなど会員同士でサポート

病児保育室 おひさま
病気の子どもの家で看られない場合、高島市民病院内の病児保育室で保育

市内の保育所など一覧

[公立] ★= 保育所型認定こども園

- マキノ東こども園 ★
- マキノ西こども園 ★
- 今津東保育園 (小規模保育事業A型)
- 朽木こども園 ★
- 古賀保育園 (保育所)
- 高島こども園 ★
- 大師山さくら園 ★
- 静里なのはな園 ★

[私立] ●= 幼保連携型認定こども園

- 愛隣こども園 ●
- なないろこども園 ●
- 安曇川はこぶね保育園 ●
- しろふじ保育園 ●
- 中央ユニバーサルこども園 ●
- 藤波こども園 ●
- 今津幼稚園 (幼稚園)
- はこぶね保育園ひかりの (小規模保育事業A型)
- Peek-a-boo (家庭的保育事業)

エリア別 子育て関連施設の数

	マキノ	今津	朽木	新旭	安曇川	高島
保育所など	2	5	1	2	5	2
学童保育所	2	4	1	3	3	1
図書館	1	1	1	1	1	1
小学校	3	2	2	2	3	1
中学校	1	1	1	1	1	1
高等学校	-	2※	-	-	1	-
特別支援学校	-	-	-	1	-	-

※うち1校は、通信制(広域)・単位制高等学校

LIVING SHIFT
子どもの学び



地域とつながる
スクールライフ

高島市らしい教育活動に注目!!

[マイスクール事業]

小中学校が主体的に取り組む自然体験活動や文化芸術活動。この活動を通して、特色のある学校づくりを推進。湖、山、森といった各地域の特徴的な自然、ふるさとの歴史や文化、高島市出身で各界を代表する人物など、地域の魅力を生かした活動により、高島を誇れる心の育成に取り組んでいる。



<活動例>

- 1 学校林の植樹・森林体験を行う「学校再生・ウッドジョブ活動」(朽木中学校)
- 2 自然教室などを行う「びわ湖いきいき体験事業」(マキノ東小学校)
- 3 体力・粘り強さを育む「赤坂山登山」(新旭北小学校)

[高校生キャリアデザイン事業]

若者の市外への転出が増加する現在。市内の高校生に向けて、高島での働き方や多様なライフスタイルを知ってもらい、将来を考えるきっかけをつくる事業。市内のさまざまな事業者と連携し、地元で働く大人との対話から「仕事の楽しさ」「郷土への理解と愛着」を育むことができるように取り組む。



<活動例>

Work Life Story EXPO:2017年から毎年開催。2022年は市内の企業や個人事業者など29事業所(47人)が参加して、高島高校と安曇川高校の1年生と対話。生徒からは「将来は高島市と関わって暮らしたい」という、うれしい声も。

News & Topics

地域をスポーツで盛り上げるTSC(Takashima Sports Club)

人口減少が加速する高島市で、小・中学生を中心に生徒数をのばしつつけるスポーツ塾がある。それが総合型地域スポーツクラブ TSC。「スポーツをめちゃめちゃ楽しむ。」をテーマに、生徒一人ひとりの個性を大切にプログラムを実施。現在18種目を展開し、今後もニーズに合わせて拡大予定とのこと。

また、その活動はスポーツだけでなくとどまらず、まちづくりにも積極的。市内最大級のマルシェの開催や自然体験型フリースクールを運営するなど、今注目を集めている。



今津町名小路1-6-5
HP tsc-presents.jp
NPO 法人 TSC
tsc_sportstown

Event Information

親子で楽しめる

高島の魅力が詰まったイベントに行ってみよう!

開催時期
年2回
(春・秋)
開催

高島のすてきな
作り手さんと出会う
たいさんじマルシェ

高台に広がる草原や田畑。泰山寺周辺はまるで北海道のように開放的のどかなエリア。この地にある食と農の交流施設「たいさんじ風花の丘」では年2回、高島のすてきな作り手さんと多く出会うマルシェを開催。地元食材を使ったグルメや新鮮な農産物の販売が充実。清々しい景色の中で高島の情報収集をしてみては。※毎週土・日曜日は館内で農産物や加工品を販売



安曇川町田中4922-2
たいさんじ風花の丘
kazahananooka

開催時期
通年実施

びわ湖の水源である
森に癒される
つつきの森

つつきの森は、標高約200~400mに位置する森林公園で、びわ湖とは違った自然の癒しを感じられる場所。季節によって表情を変える森の散歩や、ワークショップ、昆虫や鳥について学ぶ講座など、年間を通じてさまざまなイベントが開催されている。森林セラピー®のセラピーロード®や、クアオルト®健康ウォーキングのクアの道®もあり、案内人による体験会も定期的に開催中。



朽木麻生443
np.o.kutsukinomori.net
森林公園つつきの森
kutsukiforest

森林セラピーは、
こちらをチェック
shinrin-therapy-takashimacity.com

開催時期
毎年7月中旬~
下旬頃開催

地元の人と
輪になって一緒に踊る
高島おどり

滋賀県で盆踊りといえば江州音頭が有名だが、高島では「高島音頭」が約600年間受け継がれている。一口に高島音頭と言っても地域ごとに異なる音頭、拍子、踊りが現在7種類あるのが特徴。そして毎年、近江今津駅近くの商店街にて市内各地の踊り手が集う盆踊り大会「高島おどり」を開催。生歌・生演奏で迫力満点。誰でも参加できるので、地元の人と一緒に踊ってみよう。



高島おどり
takashimaodori
高島おどり事務局

どんな踊りか見てみよう!

高島の暮らしをもっと知るには?

<高島のご縁づくり!>



観光や移住でもない、高島とご縁をつなぐ取組み「高島縁人」。ホームページで高島市とつながることができるさまざまな活動を紹介。



<市の取り組みの最新情報をチェック!>



<「移住」の2文字が頭によぎったら>

高島市役所市民生活部
市民協働課

TEL 0740-25-8526 (平日 9:00~17:00)
MAIL info@move-takashima.jp
※土日祝は要予約

高島市公式サイト
「高島で暮らそう。」



<SNSで四季の魅力を発見!>



高島市公式facebook
あつと高島【高島市役所】



高島市公式Instagram
takashima_city